

【原著】

筑波大学 Global30 学士課程入試の追跡調査

白川 友紀, 松井 亨, 本多 正尚, 大谷 奨, 島田 康行 (筑波大学)

筑波大学で 2010 年度から実施してきたグローバル 30 入試（「私費外国人留学生特別コース入試（学群英語コース入試）」）で入学した学生について、学内成績を指標とした追跡調査を行った。A+, A, B, C, D 評価（D 評価は不合格）の 5 段階の評価のうち A 評価以上の単位数の割合、ならびに GPA を調査した結果、どちらも高評価であることが分かった。一般入試（前期個別学力検査）、推薦入試で入学した学生との比較でもグローバル 30 の学生が好成績であった。

1 はじめに

我が国のグローバル化に対応して 2020 年を目途に留学生受入れを 30 万人にするという「留学生 30 万人計画」の実現に向けて、海外の学生への質の高い教育の提供と日本に留学しやすい環境を提供する取り組みのうち、英語による授業のみで学位が取得できるコースの設置や留学生受け入れに関する体制の整備等、国際化拠点の形成を支援するため「国際化拠点整備事業（グローバル 30）」が 2009 年度に開始された。この事業は 2010 年 11 月の行政刷新会議による事業仕分けの結果を受け、2011 年度からは「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業（グローバル 30）」として、産業界との連携や拠点大学間のネットワーク化により資源や成果の共有化を図り、日本の大学の国際化を推進することを目的として計 4 年間の支援が行われた。本稿ではこの 4 年間の事業とその後の継続した取り組みを通して「グローバル 30」と表記し、以下では G30 と略記する。

G30 に採択された大学は、国立 7 大学（東京大学、東北大学、筑波大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学）、私立 6 大学（慶応義塾大学、上智大学、明治大学、早稲田大学、同志社大学、立命館大学）の計 13 大学であった。

採択された大学では、英語による授業のみで学位が取得できるコースを増設するとともに、優秀な留学生を集めるために、留学説明会の開催、現地で受験できる入試の実施、入学後のサポート（相談窓口や相談員、日本語・日本文化の学習機会、インターンシッププログラムなどの就職支援）の実施など、留学生受入れ体制の充実を行っている。

これらの留学生受入れ等に関する成果は、学部入試担当者等による会合を開催し、G30 採択 13 大学だけでなく、その他の国際化に積極的な大学にもその効果を波及させていくよう取り組んでいる。

本論文は、この G30 入試で入学した学生の学内成績の追跡調査結果を報告し、大学入試研究者、担当者

の参考となって、各大学の留学生受入れの拡大などに資することを目的とする。

2 グローバル 30

2.1 筑波大学の取り組み

筑波大学では「国際性の日常化」構想を推進して、学生と教職員が世界の一員であることを日常的に実感する環境の構築を図っており、この G30 の取り組みを通じて留学生数および海外派遣日本人学生を飛躍的に増加させることが、この構想を具現化できる契機であると認識し、積極的に G30 に取り組んできた。

採択年度の 2009 年度に「国際化推進委員会」および「国際戦略室」を設置し、2010 年度には学群¹⁾と大学院に英語での授業のみを受けて卒業できるコース（英語プログラム）を開設した。学群の英語プログラムとしては「社会国際学教育プログラム」と「生命環境学際プログラム」の 2 コースを新設した。学群コースへの学生募集は 2009 年度に開始し、2010 年 8 月に 21 名の第 1 期生を入学させた。そのうち成績優秀な 8 名は 2014 年 3 月に早期卒業し、大学院に進学した。

優秀な外国人留学生を集めるため、独自の奨学金制度「つくばスカラシップ」により、G30 学群英語プログラムに入学した優秀な留学生には、入学金及び授業料の免除を制度化し、定員の半数程度を目安とした奨学金の付与、授業料の全額又は半額不徴収を行っている。「つくばスカラシップ」は、また海外派遣日本人学生への支給も行っている。

海外での PR のため、従来は 2 地域 2 か所であった海外事務所を、7 地域 13 事務所に拡充した。

優秀な外国人留学生の受入環境の整備として、海外からの留学生がより受験しやすくするために、WEB 出願や、現地における入学者選抜・テレビ会議や SNS を用いたネット入試を導入した。また、日本語教材の e-ラーニングシステム及び DVD 化による渡日前の日本語学修支援や入国手続きの代理申請等を行っ

た。

入学後の支援として、日本人学生と留学生がともに学修や情報交換等ができる空間であるスチューデント・コモンズを開設した。スチューデント・コモンズでは常駐教職員や留学経験者による生活相談窓口、留学相談に応じるヘルプデスク、提出する英文書類の作成等を指導するライティングデスク、留学報告会や留学説明会等による交流を行っている。

留学生等の住環境の整備のため、2009 年度から従来からあった学生宿舎の改修を行った。

さらに、日本語を解さない留学生のために、カウンセリング業務の教員 1 名を保健管理センターに配置している。

2.2 筑波大学 G30 入試募集と要件

G30 学群英語プログラムでは、社会国際学群の国際社会学プログラム、生命環境学群の生命環境学際プログラム、医学群医療科学類の国際医療科学プログラムの 3 つが開設されているが、このうち国際医療科学プログラムは編入学生の受入れのみで入学者も少ないので、本稿では国際社会学プログラム、生命環境学群の生命環境学際プログラムの 1 年生から入学する入試を対象として報告する。

国際社会学プログラム、生命環境学際プログラムは、それぞれ学習目的とアドミッションポリシーを公表して、G30 入試（「私費外国人留学生特別コース入試（学群英語コース入試）」）の募集を行っている。出願資格は、以下のとおりである。

日本国籍を持たないもので、以下の①～⑤のいずれかに該当するもの

- ① 日本以外の国において、正規の学校教育における 12 年の教育課程を修了した者または入学時までに修了見込みのもの
- ② 日本において、文部科学大臣が指定する国際ナショナルスクールの 12 年の課程を修了した者または入学時までに修了見込みの者で、入学時までに 18 歳に達するもの
- ③ 国際バカロレア資格、アビトゥア資格（ドイツ）、バカロレア資格（フランス）、GCE・A レベル資格（英国）のいずれかを有する者または入学時までに有する見込みの者で、入学時までに 18 歳に達するもの
- ④ WASC, CIS, ACSI のいずれかの認定を受けた学校の 12 年の教育課程を修了した者または入学

時までに修了見込みの者で、入学時までに 18 歳に達するもの

⑤ その他

また、学校長等による推薦を出願要件としており、高校 3 年間において英語による教育を受けていなかったものに対しては TOEFL-iBT 61 以上、TOEIC 600 以上、IELTS 5.0 以上、あるいはこれらと同等の英語検定の成績を要求している。

募集人数はいずれも若干名である。

2.3 G30 入試の実施

試験は 2 段階で実施される。最近の入試の実施時期と試験の内容は以下のとおりである。

受験生はまず 11 月から 12 月の受付期間中にオンラインで出願登録と第 1 段階の受験料の支払いを行う。

第 1 段階は書類審査で、1 月上旬までに学習計画書等を含めた応募書類をアドミッションセンターに提出する。受験生と高校のそれぞれから送られた書類の審査により合否判定を行い、2 月初めに合否通知が送られる。

第 1 段階に合格した受験生は、第 2 段階の受験料を支払い、2 月から 3 月の間に（ビデオ会議システム等のビデオ通話を用いて）個別面接を受ける。個別面接の審査を経て、3 月下旬に最終の合否が通知される。

最終合格者は 4 月に入学手続きを行う。実際に入学するのは 9 月である。ただし、2010 年度の G30 開始当初は 8 月入学としていた。

2.4 実施結果

2010 年度から 2016 年度までの社会国際学群と生命環境学群の G30 入試の 1 年次からの入学者、ならびに、国際医療科学プログラムの編入学者も含めた G30 入試全体の出願者数、合格者数、入学者数を表 1 に示す。

全体の人数が社会国際学群と生命環境学群の人数の合計と合わないのは、全体の数には医療科学類などの編入学者数が含まれているからである。

G30 の開始から年を経るごとに順調に出願者、合格者、入学者が増えているが、開始当初の 2010 年度から 2012 年度は、11 月の募集だけでは受験者が十分に集まらず、2 月にも募集を行った。最近では 11 月の募集だけで 100 人を超える出願がある。合格しても入学しない学生は毎年いるが、特に 2011 年度にその割合が最も多くなっているのは震災の影響であろう。

表 1 G30 入試出願者数・合格者数・入学者数の推移

入学 年度	社会国際学群			生命環境学群			全 体		
	出願 者数	合格 者数	入学 者数	出願 者数	合格 者数	入学 者数	出願 者数	合格 者数	入学 者数
2010	9	9	7	22	19	14	31	28	21
2011	20	12	8	33	29	14	53	41	22
2012	44	20	17	43	32	23	91	55	43
2013	53	24	20	55	45	35	110	71	57
2014	76	26	18	51	34	23	134	63	44
2015	85	25	12	77	35	23	169	64	38
2016	77	25	20	75	40	31	158	68	54

社会国際学群の1年次の入学定員は160名、生命環境学群の1年次の入学定員は250名であるので、最近では定員の1割強の英語プログラムの学生が入学していることになる。

2.5 出身国

G30による入学者の出身国は、2016年度の入学者までの累計で66か国・地域となっている。²⁾

3 学内成績追跡調査

3.1 追跡調査の指標

ある入試を評価する指標として、その入試で入学した学生の入学後の学内成績を用いることは、以前から行われてきた。その例としては、たとえば大学入試研究ジャーナルの論文(南ほか, 2002)があげられる。

本稿においても、G30入試では優秀な留学生を入学させることとなっているので、学内成績を指標として調査した。

3.2 G30 入学者の学内成績

2010年度からの学群1年次へのG30入試入学者の2015年度末までの学業成績を調査して、

1. 成績評価がA+, A, B, Cの科目数の対象学生間平均(合格科目数)
2. A+, A, B, C, D評価の科目数に対するA+, A評価の科目数の割合の対象学生間平均(A割合平均)

3. $(A+, A \text{ 評価の単位数} \times 3 + B \text{ 評価の単位数} \times 2 + C \text{ 評価の単位数})$ を $(A+, A, B, C, D \text{ 評価の単位数の和})$ で除した数値の対象学生間平均(GPA平均)

を集計した。

GPAの計算をする際にA+の重みを4とする計算方法をとる場合もあるが(林, 2013)、大学全体としての追跡調査では以前からの調査との連続性を保つためA+とAをまとめてA評価として扱っているため、本稿でも同様の扱いとした。

社会国際学群と生命環境学群の学生のそれぞれの成績の集計結果と両者をまとめて集計した結果を表2に示す。

G30の学生は秋入学なので、通常は4年後の7月に卒業する。従って2015年度末までには2010年度と2011年度入学生の多くは卒業しているので卒業までの成績を評価した。何らかの理由で留年した学生については2015年3月までの成績を評価した。また途中で退学した学生は退学までの成績を評価した。

2012年度以降の入学生は2015年度末には在学しているため、2012年度入学生については3年半、2013年度入学生については2年半、2014年度入学生については1年半、2015年度入学生については半年間の成績を評価した。

表 2 G30 入学者の成績

入学 年度	社会国際学群入学者の成績			生命環境学群入学者の成績			全 体		
	合格 科目数	A 割合 平均 (%)	GPA 平均	合格 科目数	A 割合 平均 (%)	GPA 平均	合格 科目数	A 割合 平均 (%)	GPA 平均
2010	75.8	63.4	2.47	103.0	55.3	2.18	93.9	58.0	2.28
2011	76.7	74.2	2.58	99.1	58.9	2.29	92.4	63.5	2.38
2012	69.5	63.1	2.42	98.9	52.5	2.21	85.1	57.5	2.31
2013	65.5	70.2	2.53	79.4	60.1	2.29	74.2	63.9	2.38
2014	45.4	79.7	2.69	53.1	53.8	2.30	49.9	64.5	2.46
2015	18.8	81.9	2.63	21.1	66.8	2.51	20.3	71.8	2.55

なお、個々の科目の成績には、A+, A, B, C, D の成績ではなく P (Pass) または F (Failure) が付く科目や、他の教育機関で取得した単位や検定試験の成績により認定された科目 (単位) もあるが、これらはこの集計における科目数や単位には含めていない。

社会国際学群と生命環境学群を比較すると、社会国際学群の方が、生命環境学群に比して、科目数が少なく A 割合平均と GPA 平均が高い。特に、社会国際学群の A 割合平均は 60% から 80% 超と大変高い値になっている。

3.2 他の入試の入学者との比較

前節で紹介した G30 入学者の学内成績を、他の入試で入学した学生の成績と比較する。大学で調査している学内成績 (A 取得率の平均) と今回調査した G30 の成績とを比較する。

比較対象として、大学全体の入学者の過半を占める前期個別学力検査による入学者の成績と 2 番目に入学者が多い推薦入試による入学者の成績を用いる。

表 3 に大学全体の前期個別学力検査による入学者、推薦入試による入学者、G30 入試による入学者の入学年度ごとの A 割合平均 (%) を示す。前期個別学力検査で入学した学生数と推薦入試で入学した学生数も表 3 中に記載した。

表 3 のデータでは、前期個別学力検査による入学者と推薦入試による入学者の成績として、2010 年度入学者については 2013 年度末までの成績、2011 年度入学者については 2014 年度末までの成績、それ以降の入学者については 2015 年度末までの成績が使われている。もし G30 入学者と同様に 2010 年度入学者と 2011 年度入学者についても 2015 年度末までの

成績を使用すると留年者の成績が含まれるため、前期個別学力検査による入学者と推薦入試による入学者の A 割合の値が多少低下すると考えられる。

表 3 入試別成績 (A 割合平均) 比較

入学 年度	前 期		推 薦		G30 成績 (%)
	成績 (%)	入学 者数	成績 (%)	入学 者数	
2010	54.3	1,349	57.4	549	58.0
2011	53.1	1,346	56.2	532	63.5
2012	49.0	1,336	52.8	537	57.5
2013	51.2	1,360	52.7	537	63.9
2014	51.9	1,395	53.4	536	64.5
2015	52.8	1,386	53.6	539	71.8

表 3 における比較は学問分野を超えた全体での比較であるので、同じ学群において入試の違いによる成績の違いも見る必要がある。表 4 と表 5 に、それぞれ社会国際学群入学者と生命環境学群入学者の入試別 A 割合平均比較 (%) を示す。

前期個別学力検査と推薦入試はどちらも学類ごとに実施されるので、追跡調査も学類ごとに行っている。そのため、表 4 の社会国際学群については前期個別学力検査と推薦入試入学者の成績は社会学類と国際総合学類に分けて集計した。前期個別学力検査で入学した学生数と推薦入試で入学した学生数も表 4 中に記載した。

表 4 社会国際学群入学者の入試別成績 (A 割合平均) 比較

入学年度	学類	前期		推薦		G30 成績 (%)
		成績 (%)	入学者数	成績 (%)	入学者数	
2010	社会	48.8	56	57.6	16	63.4
	国際	57.9	41	59.2	25	
2011	社会	50.0	64	58.4	16	74.2
	国際	59.8	40	60.1	24	
2012	社会	37.8	64	42.1	16	63.1
	国際	45.5	48	55.0	24	
2013	社会	50.5	68	58.1	16	70.2
	国際	52.7	51	54.4	24	
2014	社会	43.3	69	70.3	16	79.7
	国際	58.5	57	64.1	23	
2015	社会	42.8	64	45.2	16	81.9
	国際	55.7	67	62.9	21	

同様に表 5 の生命環境学群については生物学類、生物資源学類、地球学類の 3 つに分けて集計した。しかし G30 については入学者数が少ないので学群ごとに集計した。前期個別学力検査で入学した学生数と推薦入試で入学した学生数も表 5 中に記載した。

表 4, 表 5 に示された結果から, G30 入試による入学者の A 割合平均が, 前期個別学力検査と推薦入試による入学者と比べて高くなっていることが分かる。特に, 社会国際学群の入学者については差が大きい。

生命環境学群入学者については, 2010 年度の生物資源学類と 2010 年度から 2012 年度の地球学類の入学者では前期個別学力検査と推薦入試による入学者の A 割合平均の方が G30 入学者よりも少し高くなっているが, その他の入学者については G30 入試による入学者の方が高くなっている。

3.3 私費外国人留学生入試との比較

G30 以前から私費外国人留学生入試が全学で行われている。募集人数はいずれの学群・専門学群も若干名である。志願者は当該年度に実施される「日本留学試験」で指定する科目等をすべて受験し, かつ, 試験の得点が出願基準を満たす成績であることが必要である。2 月下旬に学類・専門学群ごとに試験を実施し, 小論文又は実技検査及び面接を課し, 日本留学試験の成績と提出書類等を総合的に判定して選抜する。

表 5 G30 生命環境学群入学者の入試別成績 (A 割合平均) 比較

入学年度	学類	前期		推薦		G30 成績 (%)
		成績 (%)	入学者数	成績 (%)	入学者数	
2010	生物	39.9	44	48.9	21	55.3
	資源	56.2	64	60.3	35	
	地球	55.9	34	60.2	13	
2011	生物	41.8	42	49.5	16	58.9
	資源	55.6	65	56.2	33	
	地球	59.7	34	59.0	11	
2012	生物	34.5	43	39.0	15	52.5
	資源	46.5	64	52.3	33	
	地球	54.5	30	54.5	13	
2013	生物	46.6	37	44.9	15	60.1
	資源	48.2	66	49.7	34	
	地球	47.1	34	50.5	12	
2014	生物	48.7	37	38.5	16	53.8
	資源	43.0	65	48.1	32	
	地球	46.3	35	53.1	13	
2015	生物	46.7	38	48.3	16	66.8
	資源	48.9	66	47.1	32	
	地球	50.6	35	48.9	10	

合格発表は 3 月初旬, 入学手続きは 3 月下旬である。社会国際学群, 生命環境学群と大学全体の私費外国人留学生入試における 2007 年度から 2017 年度までの出願者数, 合格者数, 入学者数の推移を表 6 に示す。

全体の出願者数は 2007 年度から 2011 年度までは出願者が増える傾向が見られ, 2012 年度から 2014 年度までは出願者数が減り, 2015 年度から増加しているのは震災の影響であろう。社会国際学群と生命環境学群の出願者数についても 2007 年度から 2011 年度までは出願者が増え, 2012 年度に減少している。

私費外国人留学生入試の入学者は, 2007 年度から社会国際学群と生命環境学群を合わせても数名であった。出願者数, 合格者数, 入学者数ともに G30 の方がかなり多い。

私費外国人留学生の入学後の成績は, 学生数が少ないため報告しない。

表 6 私費外国人留学生入試出願者数・合格者数・入学者数の推移

入学 年度	社会国際学群			生命環境学群			全 体		
	出願 者数	合格 者数	入学 者数	出願 者数	合格 者数	入学 者数	出願 者数	合格 者数	入学 者数
2007	17	3	2	5	4	3	99	34	27
2008	14	2	2	13	3	3	102	25	20
2009	12	2	2	8	5	3	96	35	22
2010	33	7	6	17	6	3	147	35	19
2011	41	5	3	25	6	3	163	30	18
2012	14	3	2	18	3	2	112	19	15
2013	19	3	2	17	5	4	101	22	16
2014	16	4	3	20	4	3	115	27	22
2015	18	2	1	19	5	3	133	24	14
2016	17	5	4	12	3	3	124	26	23
2017	26	5	5	35	3	3	197	27	21

4 結果についての考察

G30 入学者の成績と前期個別学力検査、推薦入試入学者の成績とを、A 評価の取得割合と GPA で比較した。その結果、2010 年度の生物資源学類と 2010 年度から 2012 年度の地球学類の入学者を除いて G30 入学者の方が好成績であることが分かった。

地球学類の 2013 年度以降の入学者については、前期個別学力検査と推薦入試による入学者の成績よりも G30 入試による入学者の成績の方が高くなっているのは、2013 年度以降に志願者が増えて優秀な学生が集まるようになったとも考えられるが、2013 年度以降入学生者の成績は 4 年間に満たない期間での成績なので、低学年向けの授業科目においては G30 入学者が良い成績を収めているとも考えられる。

また、そもそも、G30 入学者は英語プログラムの授業を履修しているため、前期個別学力検査や推薦入試による入学者とは履修している科目が異なるので、成績をそのまま比較できるかどうかとも検証する必要があるかもしれない。しかしながら、英語の授業であっても日本語の授業であっても各科目の内容は同じで、シラバスに沿って成績評価を行っており、成績の評価、難易度がそれほど大きく異なっているとは考えにくい。

また、著者らが実施した「理数学生応援プロジェクト」による「先導的研究者体験プログラム」が基本的には日本語で実施しているにもかかわらず G30 入学

者の参加率が高く、研究志向が高いという印象であった。(白川ほか, 2014)

最初にも述べたが、2010 年度入学者 21 名のうち 8 名が 2014 年 3 月に早期卒業しており、これらの学生が相当に優秀であることは間違いないであろう。

私費外国人留学生入試での入学者が 2007 年度からずっと社会国際学群と生命環境学群を合わせても数名であったのに対し、G30 の入学者は数十名となっており、留学生数を飛躍的に増加させることに成功していると考えられる。

5 おわりに

本稿では、筑波大学で 2010 年度から実施してきた G30 入試、すなわち「私費外国人留学生特別コース入試(学群英語コース入試)」で入学した学生について、学内成績を指標とした追跡調査の結果を報告した。A 評価の取得割合と GPA を調査した結果、どちらも高評価であることが分かった。前期個別学力検査、推薦入試で入学した学生との比較でもグローバル 30 の学生が好成績であった。

G30 入試で入学した学生が好成績であることもあって、その後これを発展させたとも言えるプログラムやコースが開設されている。G30 入試は英語の授業だけで卒業できるプログラムに留学生を入学させる入試であるが、日本語と日本文化を学ぶ「Japan-

Expert (学士) プログラム」も 2016 年度から開始した。日本に興味、関心を持つ留学生を対象に、高い日本語能力を身につけ、日本の文化・社会を理解し、4つのコースでの専門的な知識や能力も身につけるための学士プログラムで、このプログラムを通して将来的に日本と世界をつなぐ役割を担う人材を育成する。

また、G30 は「日本国籍を持たない」留学生が対象であるが、日本国籍と外国籍の両方を持っている受験生も受け入れるため、「日本国籍以外の国籍を持つ」受験生を対象とした入試(プログラム)もスタートした。

さらに学生の住環境の整備も進み、5つの個室と1つのLDKを1ユニットとし、総計100ユニットの学生宿舎、ならびに会議や交流会などのイベントを実施することを目的とした共同棟からなる、留学生と日本人学生が混住するグローバルヴィレッジが2017年度に新築オープンした。

「筑波大学『理数学生応援プロジェクト』と入学経路」『大学入試研究ジャーナル』, **24**, 195-200.

注

- 1) 筑波大学では、「学部」に代わる組織として「学群」を置いている。
- 2) Algeria, Australia, Austria, Bangladesh, Bhutan, Brazil, Burkina Faso, Cambodia, Cameroon, Canada, China, Côte d'Ivoire, Czech Republic, Ethiopia, Finland, France, Germany, Ghana, Greece, Hong Kong, India, Indonesia, Iran, Israel, Italy, Kazakhstan, Kenya, Laos, Malaysia, Maldives, Malta, Mexico, Mongolia, Morocco, Myanmar, Nepal, Netherlands, New Zealand, Nigeria, Norway, Pakistan, Peru, Philippines, Poland, Qatar, Republic of Korea, Republic of South Africa, Romania, Russia, Saudi Arabia, Singapore, Sri Lanka, Sweden, Syria, Taiwan, Tanzania, Thailand, Tunisia, Turkey, Uganda, United Kingdom, United States of America, Uzbekistan, Viet Nam, Zambia, Zimbabwe

参考文献

- 林 寛子 (2013). 「大学入学時と卒業時における学生の『質』と選抜方法の評価」『大学入試研究ジャーナル』, **23**, 79-84.
- 南 一郎・野尻洋一・越田 豊 (2002). 「入学者選抜方法と学内成績の関係」『大学入試研究ジャーナル』, **12**, 109-114.
- 白川友紀・本多正尚・戸田さゆり・川勝 望 (2014).

